

# 東方学院だより

第8号

平成18年4月1日発行

編集・発行

財団法人東方研究会事務局

東京都千代田区外神田2-17-2

TEL: 03-3251-4081 FAX: 03-3251-4082

http://www.toho.or.jp

## ○理事長挨拶

平成十七年度は、財団法人東方研究会・東方学院創立者中村元先生の七回忌にあたる節目の年となりました。皆様よりの直接、間接の厚いご支援、あるいは時には温情あるご叱咤を頂き、これまで創立の意志を受け継ぎ、「人間」の回復をめざして、財団法人東方研究会・東方学院は微力ながら努力してまいりました。しかし、過ぎた七年という歳月を振り返ってばかりではいられません。これからまた更なる発展を願い、さらなる精進を重ねてまいります。

## ○平成十七年度の行事

### 新春祝賀会

三月十五日(火)、文京区湯島の東京ガーデンパレスにて講演および新春祝賀会が行われました。

講演の部では、二宝船舶社長の田中敬一氏が「村上素道老師の思い出」と題して講演されました。田中氏は東方研究会が行っているアジア派遣留学生事業の創設と維持に深くかかわられております。現在、奈良県の薬師寺で行われているアジア派遣留学生による講演会は、以前、熊本県の聖護寺で行われておりましたが、その聖護寺の中興開山が演題の村上老師です。また村上老師は蓮月尼の研究者としても知られています。講演では、平成十六年二月に復刻された『村上素道老師集』全七巻(国際禅道場鳳儀山聖護寺護持会)が披露

されました。

次いで、永らく東方学院講師を務められ、また第二代の東方学院院长であった三枝充恵先生の最終講義「東方研究会・東方学院を語る」がありました。

その後、引き続き新春祝賀会が、一〇〇名近い方々にご列席をいただき盛大に開かれました。

### 第二回清水寺仏教文化講座

五月二十九日(日)、島根県安来市の清水寺様との共催、安来市教育委員会の後援で第二回清水寺仏教文化講座が清水寺光明閣にて開かれました。

講演者・演題は、水上文義先生(東方学院講師)「神と仏の出会い 神仏習合思想」、前田専學先生(東方学院学院長)の「ラフカディオ・ハーンと神道」でした。

### 第十五回鎌倉夏期宗教講座

八月二十六日(金)、鎌倉市の鶴岡八幡宮直会殿にて第十五回鎌倉夏期宗教講座が開かれました。

講師・演題は、加藤純章先生(麗澤大学教授・名古屋大学名誉教授)「インド思想における「非暴力」の背景」、田村晃祐先生(東洋大学名誉教授)「人間平等の思想―一乗思想の根拠―」、吉田茂穂先生(鶴岡八幡宮宮司)「源義経と静御前」でした。三先生の講演は、前田専學学院長の挨拶とあわせて、『東方』第二十一号に掲載いたしました。

### 第十五回中村元東方学術賞

十月十日(月)、東京九段のインド大使館講堂にて、第十五回中村元東方学術賞の授賞式が行われました。

今回は木村清孝博士(国際仏教学大学院大学学長)が受賞されました。木村博士は華嚴思想を中心とする東アジア仏教研究において優れた業績をあげておられることにより受賞されました。授賞式には、駐日インド大使マニラル・トリパティ閣下の代理としてラム・アツパガニ、インド大使館二等書記官のご臨席を賜り、東方研究会、インド大使館より、それぞれ賞状と記念品が木村博士に授与されました。

その後、ビザホールに会場を移し、九十名近い出席者を迎え、祝賀会が開かれました。

### 第六回東方学院・酬仏恩講合同講演会

十一月二十七日(日)、奈良西ノ京の薬師寺の慈恩殿にて合同講演会が開かれました。本講演は、アジア諸国派遣留学生の帰朝報告を兼ねて、薬師寺内に設けられた酬仏恩講様と合同で、薬師寺様の後援を得て行っているものです。今回の講師・演題は、吉村均氏(東方研究会研究員・平成十四年度派遣)の「ネパールで学んだこと インドからチベットに受けつがれた智慧」、畠中光亨先生(日本画家・京都造形芸術大学教授)の「仏のかたち」でした。

### 平成十七年度公開研究会

本年度は以下の発表が行われました。

- 第一回、五月十九日(木)、武田浩学研究員「なぜ人を殺してはいけないのか―空思想研究者の教証と念仏実践者の信証―」。
- 第二回、六月十六日(木)、吉村均研究員「オーブンでない知について―仏教の空と神秘主義―」。
- 第三回、七月二十一日(木)、鈴木一馨研究員「禅宗と風水の微妙な関係―知られざる禅とともに入ってきた中国文化―」。
- 第四回、九月八日(木)、立花弥生研究員「鎌倉・長谷寺出土写経骨の思想背景―問題の所在を中心に―」。
- 第五回、十一月十七日、石川巖研究員「河西チベット族への中国民間信仰の浸透―敦煌チベット文献P. T. 一二七の分析を中心として―」。
- 第六回、十二月十五日(木)、保坂俊司先生(麗澤大学)「禅とスーフイズム―この神秘的同一性について―」。
- 第七回、一月十九日(木)、及川弘美研究員「宗教体験としてのバクティ―『バガヴァッド・ギーター』を中心として―」。
- 第八回、二月十六日(木)、森和也研究員「十九世紀日本人の『インド』発見―平田篤胤と近世日本のインド認識―」。

※平成十八年度の公開研究会の予定については、事務局までお問い合わせ下さい。

【お知らせ】

○平成十八年度東方学院新規開設講座

平成十八年度から新規開講の講座（講義内容の大幅な変更等を含む）を以下にご紹介いたします。

東京本校

・『時輪タントラ』入門 田中公明 講師。

火曜日。一三時～一四時三〇分。四〇二号室。

東京大学講師、利賀村「瞑想の郷」主任学芸員。

インドの仏教は十三世紀の初頭、イスラム教徒の侵入によって滅亡します。『時輪タントラ』は、インドで成立した最後の仏教聖典で、そこには仏教の宇宙論や天文暦学、人体論や生理学説など、長い期間を経て発展してきたインド仏教の全理論が、体系的に集約されています。

日本の仏教は、主として八世紀半までのインド仏教を受容したので、それ以後のインド仏教の展開については知られていませんでした。そこでわが国の仏教界では、これ以後のインド仏教は、「衰退」とか「墮落」といった視点でとらえられ、正しく評価されることはありませんでした。今回は、『時輪タントラ』の概説を通して、仏教の故国インドにおける仏教の滅亡と、その最後の姿を明らかにしたいと考えています。

・「比較思想」川崎 信定 講師。

木曜日。一三時～一四時三〇分。四〇一号室。

東洋大学教授、筑波大学名誉教授、財団法人東洋文庫研究員。

「思想」に関して「比較」の手法と手続きはなぜ必要とされ、また有効であるのか。東西の思想文化圏において、どの時代においても問題とされている、人間にとっての普遍的問題のいくつかを取り上げ、思想を比較して論ずる意義を分析いたします。

・「絵画（宗敎画他）実技」菅沼 莊二郎 講師。

土曜日。一四時～一七時。月二回。菅沼アトリエ。

菅沼アトリエ主宰、画家。

民画、素朴画、宗敎画の模写（正確さを求めない）と自由創作を行います。素朴な絵画の内にある原初性に触れ、それによって自由創作を豊かなものになります。画材は、紙、板、キャンバス、鉛筆、パステル、アクリル、油絵の具。好みに応じて使い分けます。

関西地区教室

・「インドの思想・宗敎を概観する」山口 恵照 講師。

月曜日。一七時～一八時三〇分。

真宗大谷派茨木別院。

大阪大学名誉教授。

インドにおいて発祥・光被し、アジアの諸地域に伝播して大きな影響を及ぼした思想・宗敎（仏教を含む）を概観し、併せてその世界的・現代的意義を考察します。西洋近代の思想に少なからぬ影響を及ぼした点にも言及します。本年度のねらいは、古今を一貫するインドの思想・宗敎について（序）です。

・「法華経の世界」苅谷 定彦 講師。

水曜日。一九時三〇分～二十一時。

真宗大谷派茨木別院。

種智院大学名誉教授。

「法華経」はインドの仏教が産んだ宗敎文学の精華で、しかも私たち一般の人々に語られた「語りもの」です。この視点からじっくりと読んで、法華経の真髓、仏教の心を探究します。

関西地区教室では、主会場が、梅新イーストホテルから真宗大谷派茨木別院（大阪府茨木市）に変更になっておりますので、ご注意ください。詳細は「東方学院の手引き」をご覧ください。また前年度から継続して開講している講座についても、「東方学院の手引き」をご覧ください。

○第三回清水寺仏敎文化講座

島根県安来市の清水寺様と共催で平成十八年五月二十一日（日）清水寺光明閣にて第三回清水寺仏敎文化講座が開かれます。

○第十六回中村元東方学術賞授賞式

平成十八年十月十日（火）に第十六回中村元東方学術賞授賞式がインド大使館講堂にて行われます。

○中村元博士七回忌記念関連の出版

『構造倫理講座』全三巻。春秋社。

雑誌『あすあすあす』（本願寺維持財団編）に昭和五十六年五月号から平成八年三月号まで連載され、生前に未刊のままとなっていた「構造倫理講座」を、七回忌を記念して、東方研究会の編集で刊行いたしました。

『KAMADO道の手帖 中村元』河出書房新社。

中村元先生の学問への入門書として、河出書房新社の同タイトルのシリーズの一冊に加えられました。東方研究会・東方学院に関係の深い諸先生方よりの寄稿があり、また巻末の「中村元ブックガイド」は、東方研究会研究員の分担執筆によるものです。

普通会員募集

普通会員になって頂くと、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合のご案内をお送りいたします。年会費、五千円。

賛助会員募集

財団法人東方研究会では賛助会員を募っております。皆様のご協力をお願いいたします。賛助会費は一口、一万円です。

※ 詳しくは東方研究会事務局までお問い合わせ下さい。